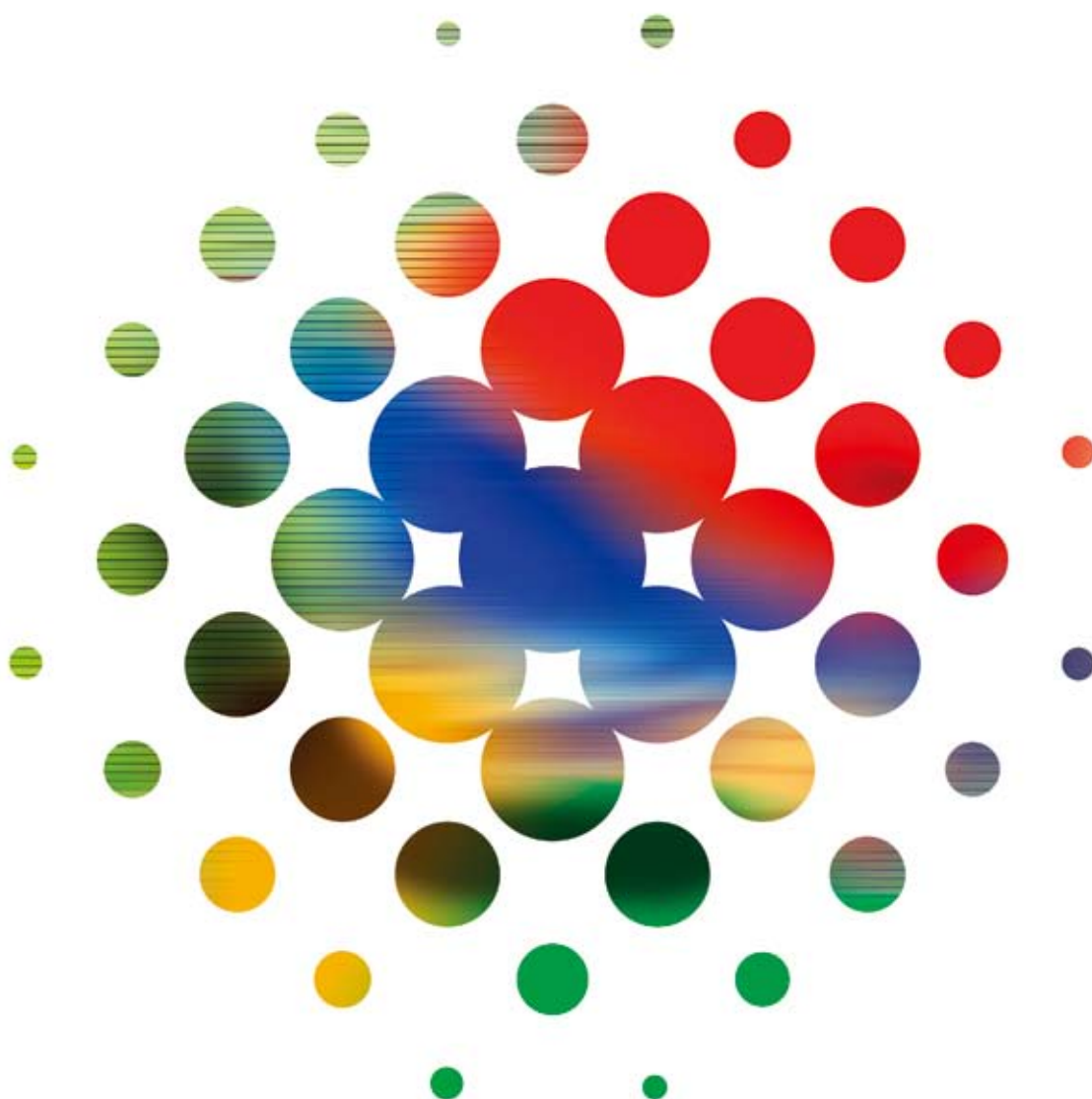


Adobe® License Manager (ALM) の 概要とインストールの手引き ~管理者編~ Version 1.2

重要 アドビ製品のインストール時にご一読が必要です。

ライセンスプログラム (TLP、CLP) にてご購入されたお客様が対象となります。
ALM 機能をオフにしてインストールする方法については
<http://www.adobe.com/jp/licensing> にてご確認ください。



はじめに

Adobe License Manager (ALM) は、お客様のライセンス管理をサポートする仕組みです。ライセンス管理は、コンプライアンスやコスト管理を行う上で重要になります。従来、このような管理には人手やコストが掛かっていました。ALM は、ライセンス管理に掛かる人手やコストを最小限にすることが可能です。

今後、アドビのデスクトップ製品は、順次 ALM に対応していきます。ALM はライセンスプログラム (TLP、CLP) にてご購入されたお客様向けの機能です。パッケージ製品は ALM に対応していません。最初に対応する製品は、2006 年 11 月に発売の Adobe Acrobat 8 (Standard, Professional) Windows 版です。なお、Creative Suite 2.3 に含まれる Acrobat 8 Professional Windows は ALM に対応していません。

ALM 対応製品は、ライセンス管理において多くのメリットをお客様にもたらしめます。一方で、インストールを行う前に ALM の運用方法について設定していただくことが必須となり、インストール方法も従来と大きく変わります。必要な設定を行わずに ALM 対応製品をインストールした場合、最初に製品を起動してから 30 日後にご利用いただけなくなります。ALM 対応製品は手順に基づいた設定、インストールが必要となりますのでご注意ください。

本手引きでは、ALM の概要や機能と各種設定、ALM 対応製品をインストールしていただく際の手順をご紹介します。

今後、ALM 対応のデスクトップ製品をインストールしていただく際に必要な手順になります。製品のインストール前にご一読ください。

目次

Adobe License Manager (ALM) の特徴	4
ALMの設定からインストールまでの流れ	6
ALMの運用方法チャート.....	7
1 ALM の運用方法をご確認ください	9
1. Adobeライセンスサーバでの運用.....	9
CLPでご購入のお客様が「シリアル番号のみ」をご選択された場合について.....	10
2. ローカルサーバでの運用.....	11
3. 混在サーバでの運用.....	12
2 Licensing Web Site(LWS) にログインする	13
3 LWS にてALM の設定を行い、インストール時に必要なファイルをダウンロードする	16
e-Licenseの無効化 (ALM機能のオフ) について.....	22
4 インストーラの準備	23
製品のインストールとe-Licenseの取得ガイドについて.....	28
5 ユーザによる製品のインストールとe-License の取得	29
6 e-Licenseのダウンロードができなかった場合	31
少数のインストールに適した方法.....	32
製品をアンインストールされる場合.....	34
トラブルシューティング	35
Q&A	38

Adobe License Manager (ALM) の特徴

複数の異なるソフトウェアアプリケーションを使用する場合、ライセンスの管理は不可欠です。ライセンス管理が重要である理由はたくさんありますが、中でも重要性が高いのは、コスト管理とコンプライアンスの確保です。ソフトウェアを業務遂行のためのリソースとしてコスト効率よく管理するためには、どのソフトウェアが誰に使用されているかを把握する必要があります。コンプライアンスでは、使用されるソフトウェアライセンスの数と種類を組織が把握していることが求められます。今後企業に対する法令や規制などにより、ソフトウェアライセンス管理の問題はさらに重要になり、一層コストのかかる問題になる可能性が出てきました。組織内で、ライセンスの使用状況を追跡管理し、法令順守を確認し、将来の計画を立てる、そのような作業に役立つツールへのニーズが高まっています。しかし、この要求を満たす技術的ソリューションが、明確な形で提供されることはありませんでした。端末のデータからインストールファイルを取得することで、ソフトウェア資産を管理するシステムがありますが、ライセンスを管理するには、ソフトウェアの購買記録をシリアル番号やインストール済みソフトウェア端末と手作業で結び付ける作業や専用のツールを別途購入する必要がありました。

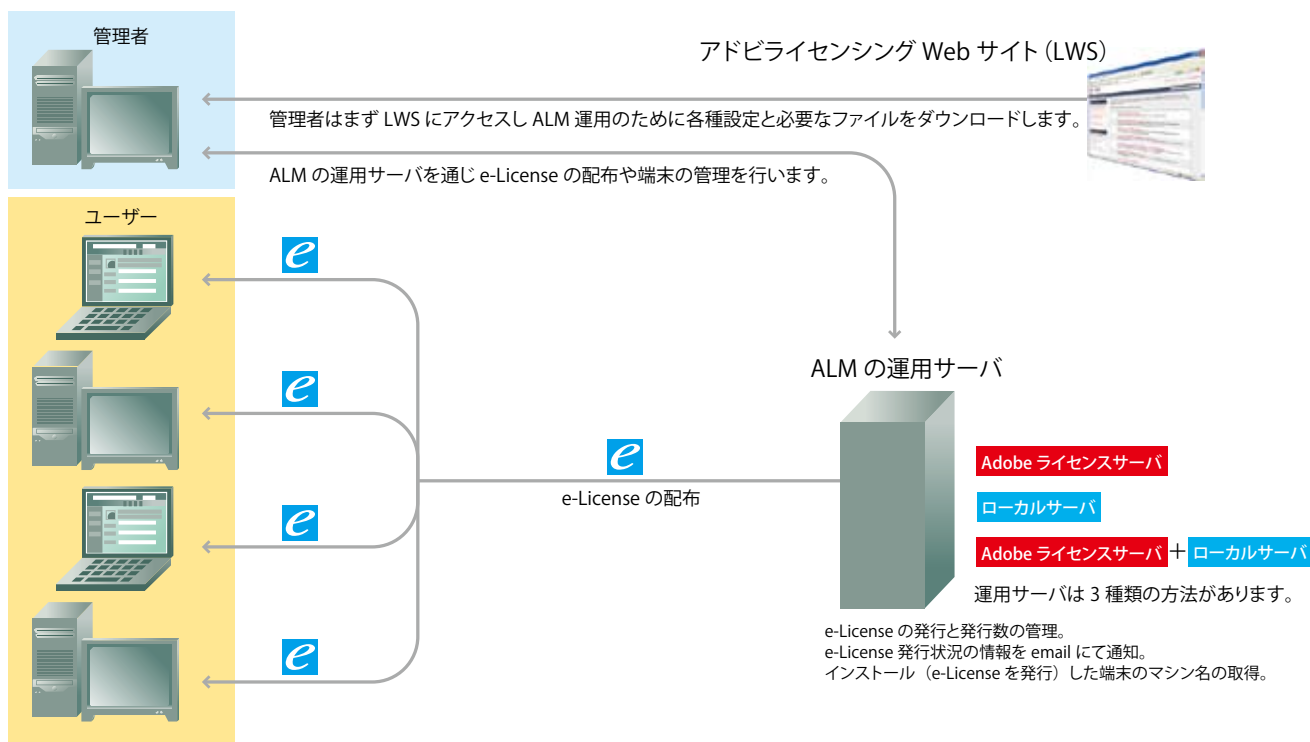
Adobe License Manager (ALM) は、積極的にライセンスの管理・運用を行いながら、手作業でのライセンス管理に要していたリソースやコストの負担を最小限にできるように設計されています。

ALM は、購入したライセンス数に応じて発行される電子的なライセンス (e-License) を利用したライセンス管理システムです。ライセンス管理担当者やシステム管理者のためのソリューションになります。ライセンス管理担当者は、指定したサーバから e-License をアドビ製品がインストールされた端末へダウンロードさせることで、ライセンスの使用数とアドビ製品を使用している端末のコンピュータ名をサーバ上で確認することができます。

e-License を発行するサーバは、アドビが用意しているものを利用いただくか、お客様でご用意いただいたサーバをご利用されるか選択いただけます。アドビが用意したサーバを利用される場合は、ALM 対応製品をインストールした端末に対して、インターネットを経由した e-License の発行が行われます。お客様のサーバで運用される場合はローカルネットワーク内での運用が可能となります。お客様のサーバで運用される際には Adobe License Server ソフトウェアが提供されますので、こちらをサーバにインストールしてご利用いただけます。

ALM 対応製品は、ユーザが初回に起動した時から 30 日以内に、e-License をユーザのコンピュータにダウンロードすることで、継続して利用いただける仕組みを採用しています。e-License のダウンロードは製品起動時にダイアログにてガイドが行われます (ダイアログがでないようにも設定できます)。初回起動から 30 日経過し、e-License がダウンロードされていない ALM 対応製品はご利用いただけなくなります。なお、一度 e-License をダウンロードしていただければ、サーバに再度接続する必要はありません。一方で、コンピュータにインストールされているアプリケーションのメニューからオプションを選択するだけで、ユーザはいつでも e-License をサーバに返却でき、ライセンス管理担当者は返却された e-License を他のコンピュータに割り当てることができます。これによりライセンス管理担当者は、ダウンロードされたすべての e-License とダウンロード可能な残りの e-License 数について、最新の状況を確認できます。サーバの e-License 数は、ライセンスを追加購入することにより増やすことができます。

ALM をご利用いただきますと、ALM 対応製品全体のライセンス利用の状況が各種ツールとレポートによって目に見える形で把握できるようになり、追加ライセンスが必要な場合にはシステム管理者に自動的に警告されるようになっていきます。このような ALM の機能により、ライセンス管理者は e-License のダウンロード先の追跡や購入ライセンスとの照合を手作業で行う必要から開放されて、付加価値の高い別の業務に専念することができ、組織としても運用コストを下げる事が可能となります。システム部門が主導するコンプライアンスについても、内部統制や法令への順守状況を ALM の基本レポートで簡単に記録管理することによって効率化できます。



アドビライセンシングWebサイト (LWS) について

シリアル番号、購入者情報や購入履歴の確認、ALM の設定ができるお客様専用サイトです。

製品ご発注時に登録された方に、サイトにログインするための ID とパスワードが email にて発行されます。

アドビライセンシング Web サイト (LWS) の詳細については <http://www.adobe.com/jp/special/aoo> にてご確認ください。

ALMの対応製品について

ALM に対応しているアドビ製品は www.adobe.com/jp/licensing にてご確認ください。ALM 対応製品以外の製品は従来通りのご運用方法になります。

ALMの設定からインストールまでの流れ

詳細は各ページをお読みください。

1 ALMの運用方法をご検討ください

9ページ

はじめに、ALMを運用されるサーバの場所を以下の3つからご検討いただけます。e-Licenseの発行を行ったり、端末のコンピュータ名を取得する場所になります。

○Adobeライセンスサーバでの運用

アドビが用意しているサーバを利用します。e-Licenseの取得は、インターネット経由で行います。すでに用意されている環境をご利用いただけるため、手軽な運用方法になります。

(ご注意)

端末のコンピュータ名を取得する方法と、取得しない方法の2種類がございます。

端末のコンピュータ名を取得する場合は、設定時に「Adobeライセンスサーバ」をご選択ください。取得しない場合は、設定時に「シリアル番号のみ」をご選択いただけます。

「シリアル番号のみ」では、e-Licenseを発行した数（インストールした端末数）のみが管理されます。

CLPでご購入のお客様が「シリアル番号のみ」を選択された場合について

LWSでALM設定を厳密に運用する必要があります。

詳しくは、10ページをご確認ください。

○ローカルサーバでの運用

お客様にてALM用のサーバを社内にご用意いただけます。e-Licenseの取得は、お客様が用意したローカルサーバから行います。ご利用の際は、アドビから無償で提供しておりますAdobe License Serverソフトウェアをサーバにインストールする必要があります。サーバ上にてALM機能の各種設定が可能です。e-Licenseや端末のコンピュータ名の取得を、お客様のファイアウォール内で行われる場合は、こちらをご選択ください。

ローカルサーバの設定方法、Adobe License Serverソフトウェアの詳細、必要環境については、www.adobe.com/jp/elicensingをご参照ください。

○混在サーバでの運用

Adobeライセンスサーバとローカルサーバの運用方法を混在してのご利用になります。

インストールする端末によってALMの運用方法を変えたい場合は、こちらをご選択ください。

ALMの運用方法チャート

ALMの機能を利用してライセンス管理を行う

YES

NO

ALM 対応製品をインストール (e-License を取得) できるコンピュータを事前に指定する運用を行う。又は、インストールする端末がインターネットにアクセス (https 接続) ができない。

ALM機能をオフ (e-Licenseの無効化)

現在、ライセンス管理ツールをご利用になられており、当面 ALM 機能をご利用にならないお客様の運用方法です。詳しくは、www.adobe.com/jp/elicensingにて「ALM をオフにする際のインストール手引き」をご確認ください。ALM は管理ツールと競合するものではなく、補完する機能です。今後アドビデスクトップ製品については ALM を搭載していく予定です。ALM をご利用されることをお勧めいたします。

YES

NO

ALM 対応製品をインストールした (e-License を発行した) コンピュータ名を確認できるようにしたい。

YES

NO

「ローカルサーバ」

お客様にて ALM 運用サーバをご用意いただく運用方法です。

LWS にて「ローカルサーバ」をご選択ください。インストールした (e-License を取得した) 端末の台数とコンピュータ名を確認する機能や e-License を取得できるコンピュータを指定する機能等のオプションもご利用いただけます。ALM 機能がもっとも充実した運用方法です。e-License 取得はローカルネットワーク内で行われます。

「Adobeライセンスサーバ」

一般的な ALM の運用方法です。アドビシステムズで用意したサーバをご利用いただけます。

LWS にて「Adobe ライセンスサーバ」をご選択ください。インストールした (e-License を取得した) 台数とコンピュータ名を LWS にて確認していただくことができます。e-License 取得はインターネット経由で行われます。

「シリアル番号のみ」

Adobe ライセンスサーバでの運用方法の一つで、もっとも簡単な ALM の運用方法です。

LWS にて「シリアル番号のみ」をご選択ください。インストールした (e-License を取得した) コンピュータの台数のみ LWS にてご確認くださいことができます。e-License の取得はインターネット経由で行われます。なお、CLP でご購入されたお客様が、この運用を行われる際は LWS の設定を厳密に運用する必要があります。CLP のお客様は「Adobe ライセンスサーバ」もしくは「ローカルサーバ」の運用をおすすめします。

専任の IT 管理者がおり、サーバ管理体制がある大規模の組織に適しています。

ALM 用のインストーラを作成していただくか、「少数のインストールに適した方法」で製品をインストールしていただけます。

専任の IT 管理者がいる中小規模の組織に適しています。

ALM 用のインストーラを作成していただくか、「少数のインストールに適した方法」で製品をインストールしていただけます。

専任の IT 管理者がいない個人事務所や小規模の組織に適しています。

インストール方法は従来の製品と同じです。購入されたインストール CD をそのまま利用してインストールすることができるため、インストールの手順が簡単です。

2 Licensing Web Site(LWS) にログインする

13ページ

LWS (<https://licensing.adobe.com>) にアクセスしてください。LWS のログイン ID、パスワードは、製品で購入時にアドビより発行された email に記載されています。

LWS は、ALM の設定の他にシリアル番号や購入製品の履歴を確認することができます。LWS の詳細、ログイン ID、パスワードについてご不明な場合は、ライセンスプログラム管理者向けサイト (<http://www.adobe.com/jp/special/aoo/>) にてご確認ください

3 LWS にてALM の設定を行い、インストール時に必要なファイルをダウンロードする

16ページ

手順に従って ALM の設定を行い、インストール時に必要なクライアントセットアップファイルをダウンロードします。「シリアル番号のみ」をご選択いただいた場合は、クライアントセットアップファイルはダウンロードされません。「5. ユーザによる製品のインストールと e-License の取得」へお進みください。なお、ローカルサーバ、混在サーバでの運用方法をご選択の場合は、Adobe-License Server ソフトウェアもダウンロードしていただけます。このサーバソフトをご用意いただいたサーバへインストールし、各種設定を行っていただけます。

4 インストーラの準備

23ページ

ダウンロードしたクライアントセットアップファイルの名前を「adobeconfig.xml」に変更します。OS の設定によっては、ファイルの拡張子が表示されない設定になっています。拡張子が表示されていない場合はファイル名を「adobeconfig」に変更してください。

次に、名前を変更したクライアントセットアップファイルを、インストールファイルと同一のフォルダ（ディレクトリ）に入れます。

CD-R（DVD-R）でインストールの際は、上記のフォルダを複製してインストール CD を作成してください。

ファイルサーバからのインストール、ソフトウェア配布ツールでのインストールの場合は、上記のフォルダを必要な場所に複製してください。ここまでが管理者の行う作業となります。

5 ユーザによる製品のインストールとe-License の取得

29ページ

インストーラを起動して、製品のインストールをしていただけます。インストール時には、LWS に記載されている製品のシリアル番号の入力が必要です。インストール後、製品を起動すると e-License 取得のダイアログが表示されます。（設定によりダイアログが表示されない場合もございます）ダイアログにて所定のボタンをクリックすることにより、指定されたサーバから e-License を取得します。

ALM 対応製品を継続してご利用いただける状態になり、設定に応じたライセンス管理の運用が開始されます。

6 e-Licenseのダウンロードができなかった場合

31ページ

e-License のダウンロードができなかった場合の対処方法です。

1

ALM の運用方法をご検討ください

製品インストール後、ユーザ（端末）は e-License をダウンロードする必要があります。しかし、Licensing Web Site(LWS) からユーザが直接ダウンロードすることはできません。管理者が e-License を発行するサーバの場所をアドビが用意しているサーバにするか、お客様が用意したローカルサーバにするか、アドビのサーバとローカルサーバを混在して利用するか、e-License の運用方法を決定し、LWS で設定を行います。なお、ALM の設定は製品のオーダー単位で行います。ALM 対応製品のライセンスを新たに購入した場合、その都度 e-License を設定する必要があります。

1 Adobeライセンスサーバでの運用

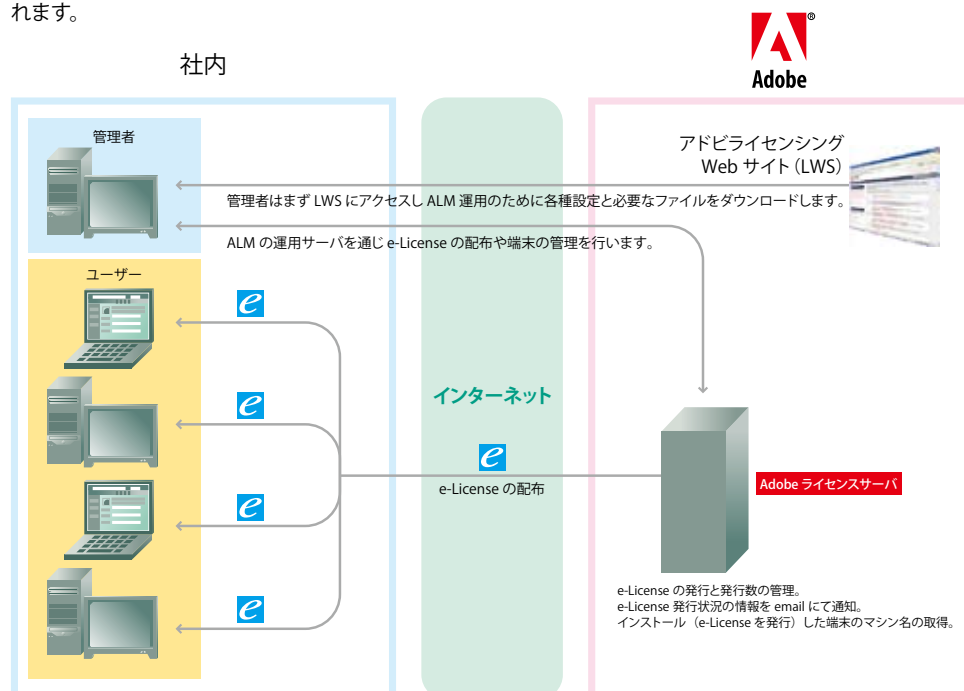
2 ローカルサーバでの運用

3 混在サーバでの運用

1 Adobeライセンスサーバでの運用

この運用方法は、システム管理者がいない中小規模の組織や、ローカルで ALM 用のサーバを用意することが難しい場合に適しています。e-License と関連情報がアドビのサーバ内に保存されます。この方法の場合、e-License の運用のため特別にハードウェアやソフトウェアは必要ありません。e-License のダウンロードは、セキュリティで保護されたインターネット接続（HTTPS）経由で実行されます。管理者は、LWS を利用して e-License を追跡できます。また、e-License がダウンロードされた端末のコンピュータ名を取得することができます。（LWS 設定でコンピュータの追跡オプションで選択）ライセンス管理上、端末のコンピュータ名を取得されることをお勧めいたします。

端末のコンピュータ名を取得されない場合のご運用も可能です。その場合は、LWS での ALM 設定の際に「シリアル番号のみ」を選択していただき、クライアントセットアップファイルのインストールは不要になります。「シリアル番号のみ」を選択された場合は従来のインストール方法と変わりませんが、ALM の機能が限定されます。

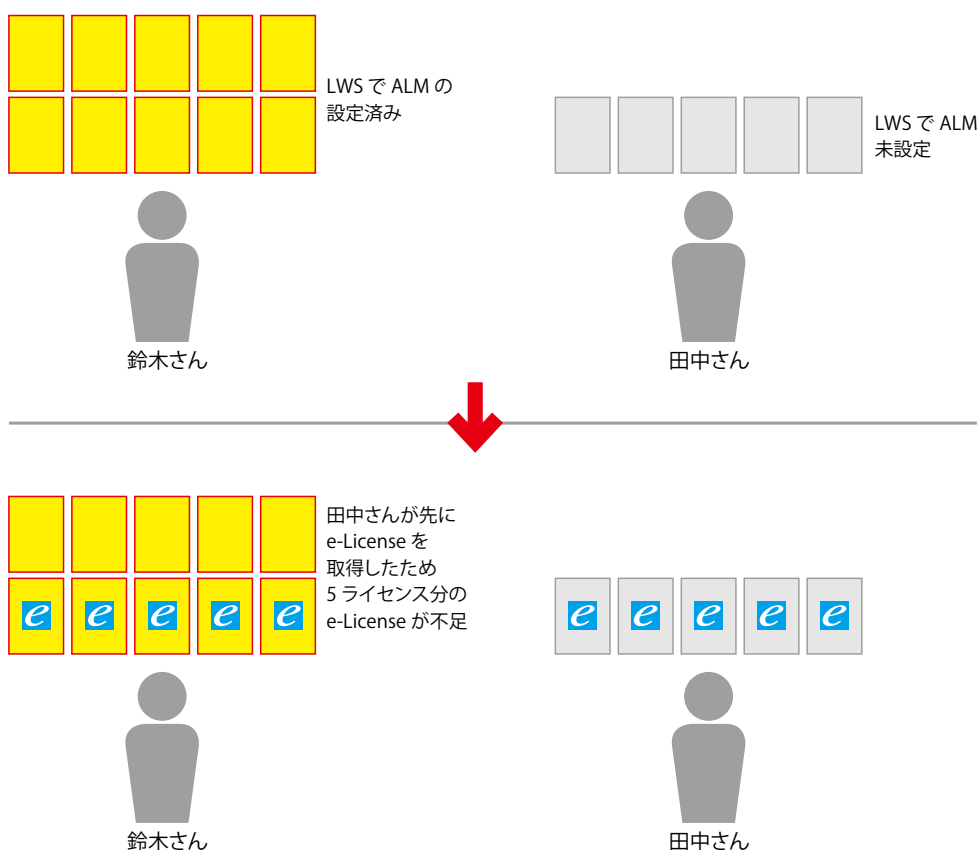


CLPでご購入のお客様が「シリアル番号のみ」を選択された場合について

CLPは、1法人もしくはグループ会社を含めて包括契約を行うことによりディスカウントを受けられるライセンス制度です。「シリアル番号のみ」を選択された場合、e-LicenseはCLP契約法人（グループ）全体に対して発行され製品単位に割り当てられております。ご購入者個別にはe-Licenseが割り当てられていません。そのため、CLPでご購入のお客様が「シリアル番号のみ」を選択される場合は、ALMの設定と運用を確実に行わないと製品を購入していてもe-Licenseを取得できない場合がございます。

(例)

CLPを契約しているA社で鈴木さんがAcrobat 8を10ライセンス購入し、LWSにてALMの設定を行いました。同じ時期に田中さんがAcrobat 8を5ライセンス購入しました。しかしALMについて知識がなく、LWSにてALMの設定を行いませんでした。ALMの設定をしていない田中さんが、鈴木さんより先にAcrobat 8を5ライセンスインストールしe-Licenseを取得しました。この場合に取得した5つのe-Licenseは、鈴木さんが設定したe-Licenseを使用したこととなります。すると鈴木さんはe-Licenseが5つ不足し、購入した10ライセンスすべてのe-Licenseの取得を行うことができない状態になります。この場合は田中さんがLWSにて「シリアル番号のみ」の設定を行うことにより、鈴木さんはすべてのe-Licenseを取得することができます。



上記のような状況を避けるためには、購入者個別にe-Licenseを割り当てる必要がございます。ご購入時に登録されたユーザ（Ship to ID所有者）がオーダーごとにLWSで「Adobeライセンスサーバ」か「ローカルサーバ」の設定を行うと、登録者別にe-Licenseが割り当てられます。

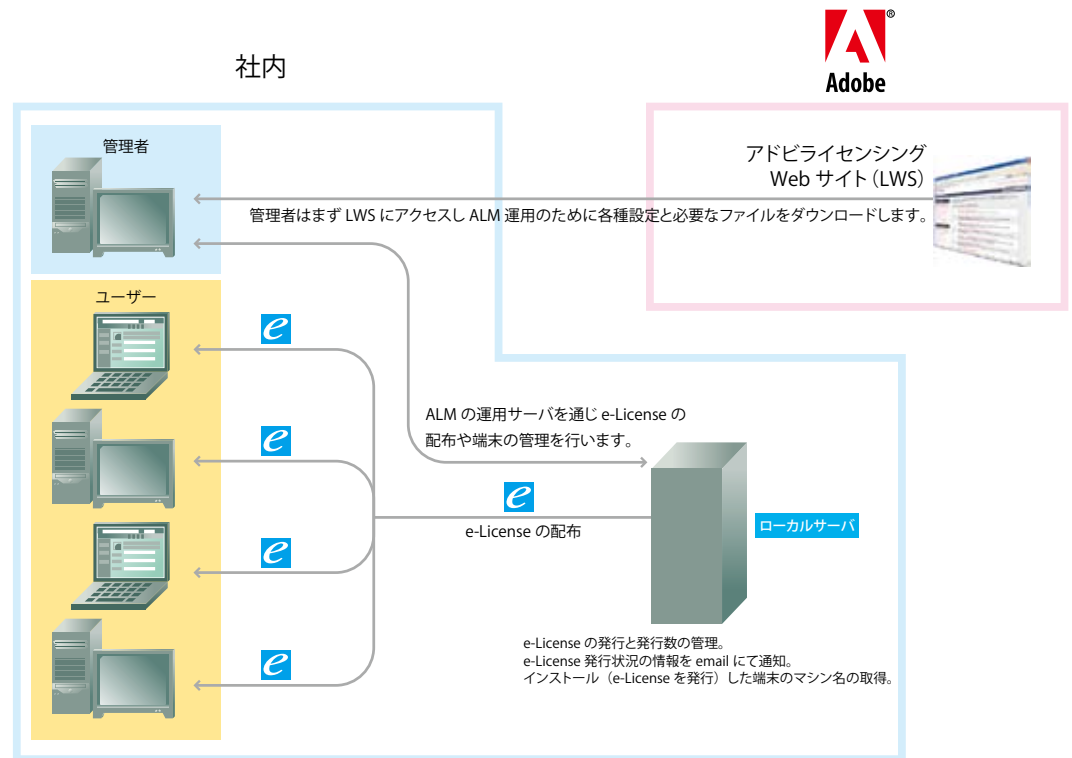
CLPとは

<http://www.adobe.com/jp/aboutadobe/openoptions/contractual.html>

Ship to IDについて

2 ローカルサーバでの運用

この運用方法はシステム管理者がいる組織や、ファイアーウォールの問題でインターネット経由でアドビのサーバから e-License をダウンロードできない場合に最適です。お客様の組織内にあるローカルサーバ内に e-License と関連情報が格納されます。この場合はお客様にてサーバを用意していただく必要があります。e-License のダウンロードは、TCP/IP ネットワーク接続経由で実行されます。ローカルのサーバを使用して e-License を管理するには、LWS から無償でダウンロード提供している Adobe License Server ソフトウェアが必要です。ローカルサーバでは、Adobe ライセンスサーバの場合に利用可能なレポート機能に加え、特定ユーザのために e-License を予約したり、他のコンピュータやユーザからの e-License 要求を却下するという追加機能を使用できます。専用のユーザガイドは、www.adobe.com/jp/elicensing にて入手していただくことができます。



3 混在サーバでの運用

Adobe ライセンスサーバ方法とローカルサーバ方法の組み合わせです。混在サーバ方法では、一部の e-License については e-License と関連情報をローカルサーバに格納し、残りを Adobe ライセンスサーバに格納するという選択が可能です。e-License のダウンロードは、アドビでホストされているものについてはセキュリティで保護されたインターネット接続（HTTPS 接続）で実行され、ローカルサーバからダウンロードされるものについては TCP/IP ネットワーク接続経由で実行されます。この方法では、コンピュータ名表示方法（アドビでホストするライセンス用）の選択と Adobe License Server ソフトウェア（ローカルでホストするライセンス用）の両方が必要です。e-License の追跡には、ホスト方法に応じて、LWS および Adobe License Server ソフトウェアを使用します。

なお、ALM 対応製品のライセンスを新たに購入した場合、その都度 e-License を設定する必要があります。設定を始める前に、ホスト方法とコンピュータ名追跡オプションについてよく理解してください。どのホスト方法を選択すればよいか分からない場合は、手続きを開始する前にシステム管理者にお問い合わせください。詳しくは、www.adobe.com/jp/elicensing をご覧ください。

ALM対応製品:運用比較表

設定オプション名	シリアル番号のみ	Adobeライセンス サーバ	ローカルサーバ	ALM機能オフ (e-Licenseの無効化)
使用するサーバ	Adobeサーバ	Adobeサーバ	ローカルサーバ	—
e-License ダウンロード先の追跡 (マシン名の取得)	不可	可能	可能	—
想定されるお客様	個人事務所、小規模	中小規模	大企業、公官庁、大学	—
インストール以前のLWSでの 設定	必須	必須	必須	必須
クライアントセットアップファイル が必要	いいえ	はい	はい	はい
ライセンスサーバツールが必要	いいえ	いいえ	はい	—
クライアントセットアップファイル のファイル名の変更が必要	—	はい adobeconfig.xml に変更してください	はい adobeconfig.xml に変更してください	はい adobeconfig.xml に変更してください
eLicense ダウンロードの方法	HTTPS	HTTPS	TCP/IP	(e-Licenseは不要)
ユーザへのe-License 取得の 表示	あり	On/Off 機能 (初期設定はOn)	On/Off 機能 (初期設定はOn)	—
レポートの参照	LWS	LWS	LWS およびLicense Server Administrator	—
運用オプション	なし	上記のみ	上記のほか、eLicenseの 割り当て先を詳細に 設定できる	—
その他			専用のユーザガイドがあります。 www.adobe.com/jp/elicensing にて入手できます。	専用のユーザガイドがあります。 www.adobe.com/jp/elicensing にて入手できます。

ローカルサーバの推奨環境

* Adobe License Server ソフトウェア対応 OS :

- Windows Server 2003
- Winows XP/SP2
- Mac OS X 10.4.x 以上

Server の要求スペック : Windows servers :

- Intel Pentium クラス、または同等の CPU
- 512 MB of RAM (1 GB 推奨)
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以上、or Mozilla Firefox 1.5 以上

Mac OS X servers :

- G4 process または G5 processor(推奨)
- 512 MB of memory (1 GB 推奨)
- Apple Safari, Internet Explorer 6.0 以上、or Mozilla Firefox 1.5 以上

2

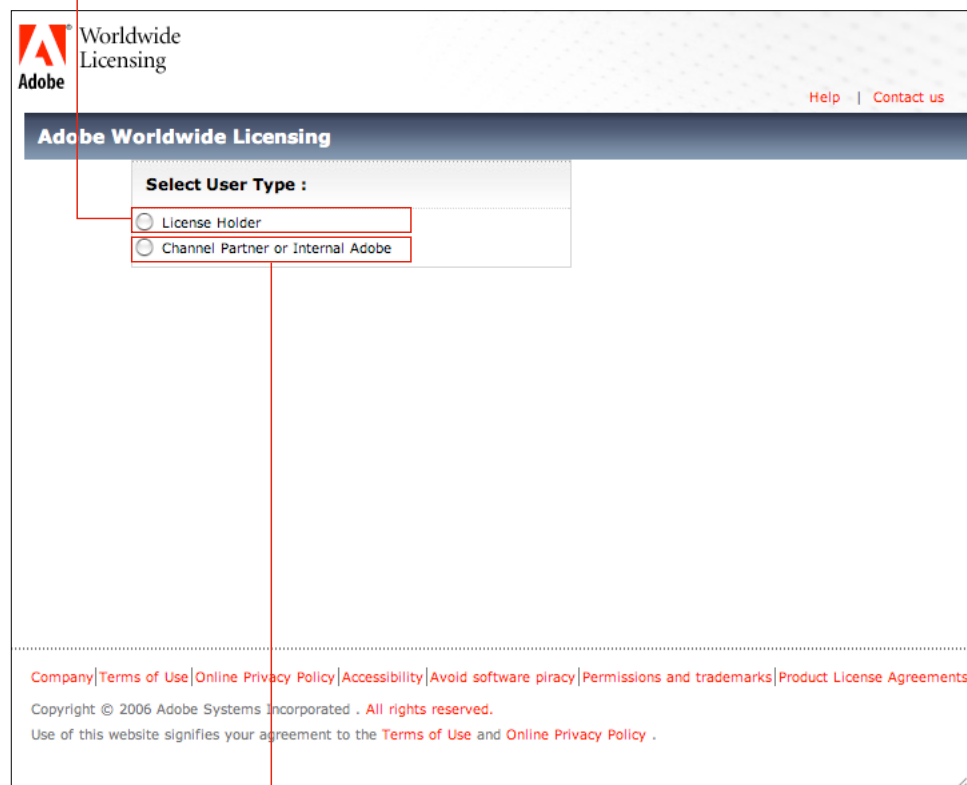
Licensing Web Site(LWS) にログインする

ALM の設定や、クライアントセットアップファイルのダウンロードのために LWS にログインします。製品ご購入時に発行されている email をご準備ください。

1. Web ブラウザを起動し、<https://licensing.adobe.com> に移動します。


2. 該当するユーザタイプを選択します。

License Holder (ライセンスの所有者) : TLP、CLP のご契約者の場合はこちらを選択します。



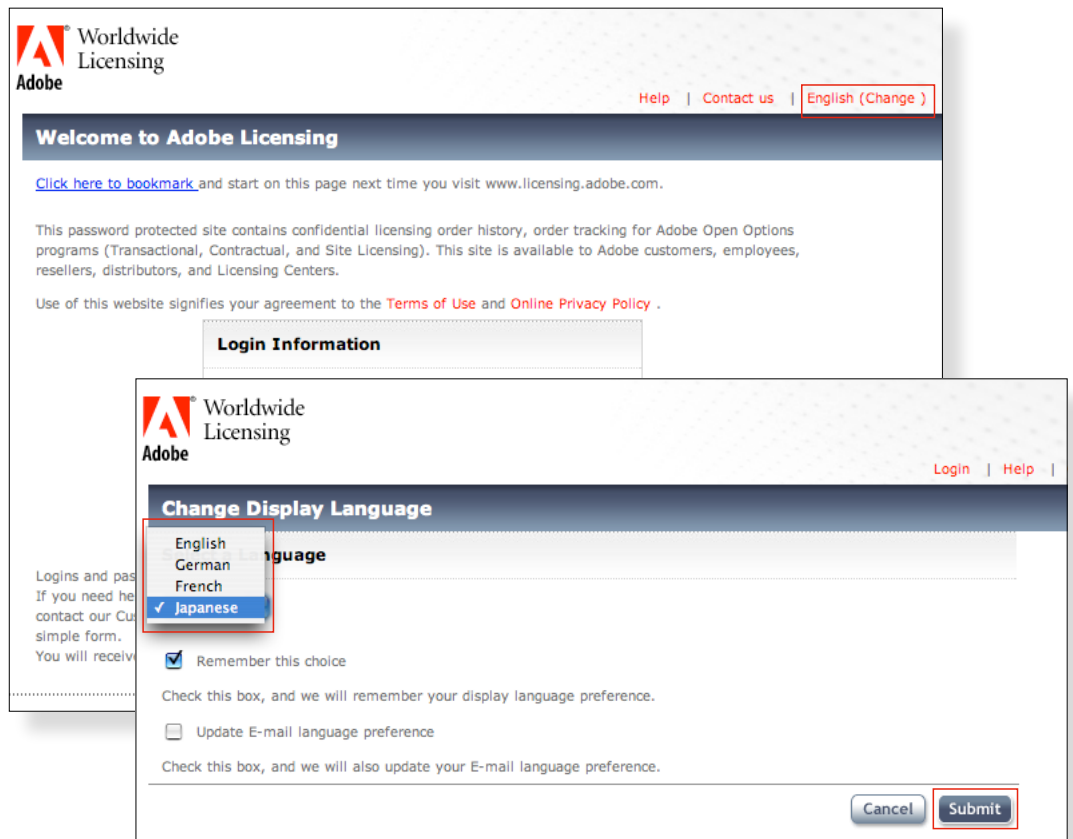
The screenshot shows the Adobe Worldwide Licensing website. At the top left is the Adobe logo and 'Worldwide Licensing'. At the top right are links for 'Help' and 'Contact us'. Below the header is a blue bar with 'Adobe Worldwide Licensing'. The main content area has a 'Select User Type :' section with two radio button options: 'License Holder' and 'Channel Partner or Internal Adobe'. A red box highlights the 'Channel Partner or Internal Adobe' option. Below this section is a footer with various links and copyright information.

Channel Partner or Internal Adobe (チャネルパートナー) : ご販売会社の場合はこちらを選択します。次に「Where are you currently located?」というメッセージが表示されます。プルダウンメニューから「Japan」を選択し、「Next」ボタンをクリックします。



The screenshot shows the same Adobe Worldwide Licensing website. The 'Channel Partner or Internal Adobe' option is now selected. Below it, a dropdown menu is open with the question 'Where are you currently located?'. The menu items are: 'Select Region', 'Asia Pac', 'Europe, Middle East and Africa', 'Japan', 'Latin America', and 'US, Canada and Mexico'. The 'Japan' option is highlighted with a blue bar. A red box highlights the 'Next>' button to the right of the dropdown menu.

画面が英語で表記されている場合は、日本語に変更してください。画面右上の「English (Change)」をクリックします。プルダウンメニューから「Japanese」を選択いただけます。「Remember this choice」のチェックボックスにチェックを入れて、「Submit」ボタンをクリックします。



3. ログインIDとパスワードを入力します。

製品ご購入後、お客様に発行されている email にてご確認ください。ID と仮パスワードが記載されています。なお、email は製品ご購入時に登録された方に発行されます。シリアル番号の管理や ALM の設定を行われる方の情報をご登録ください。発行されている email のタイトルは「アドビライセンスサイトへようこそ」です。パスワードを変更されている場合は、お客様で変更されたパスワードを入力してください。



「お気に入りに追加するには、ここをクリックしてください」をクリックしていただくと、URL がお気に入り登録されます。登録された URL からアクセスされた場合は、ログイン ID とパスワードの入力ページから表示されます。

Worldwide Licensing
Adobe

ヘルプ | お問い合わせ先 | 日本語 (変更)

アドビライセンスングのご利用ありがとうございます

お気に入りに追加するには、ここをクリックしてください。して、今後www.licensing.adobe.comにアクセスする際にはこのページから開始します。

このサイトはパスワードで保護されており、ライセンスオーダー履歴やAdobe Open Optionsプログラム (TLP、CLP) オーダー情報といった情報が含まれています。このサイトは、アドビのお客様、社員、販売会社、流通会社、およびライセンスングセンターが利用できます。

このWebサイトを使用されることで、お客様は利用規約およびプライバシーポリシーにご同意されたものとみなされます。

ログイン情報

パスワードに関する注意

1. パスワードを忘れてしまった場合は、「パスワードをお忘れですか?」をクリックするとパスワードヒントを表示します。パスワードを思い出せない場合、「ログインIDと新規パスワードの再送信」をクリックしてください。登録されているお客様のメールアドレスに、ログインIDと新しいパスワードが送信されます。(email が届くまでに 30 分程度かかる場合があります)

ログイン情報

ログインID パスワード

パスワードをお忘れですか?

ログイン情報

お客様のパスワードヒント:
Contact Sales Team

ログインID パスワード

ログインIDと新規パスワードの再送信

ログイン

2. お客様が所有されている ID が、別の ID に統合されている場合がございます。その場合は、統合された ID が表示されます。統合後の ID をご利用ください。これまで、一人のお客様に対して複数の ID が発行されている場合がございます。管理を簡素化していただくために、複数発行されていた ID を一つに統合しております。統合された ID のパスワードが不明な場合は、「ログイン ID と新規パスワードの再送信」をクリックしてください。

4. 初回のログイン時には「パスワードの変更」画面が表示されます。新しいパスワードを入力し、確認のために同じパスワードを再入力してから、パスワードヒントを入力します。

LWS は ALM の設定の他にシリアル番号の確認やご購入製品の履歴を確認することができます。LWS の詳細については <http://www.adobe.com/jp/special/aoo/> にてご確認ください。

3 LWSにてALMの設定を行い、インストール時に必要なファイルをダウンロードする

1. LWS にログイン後、「新規オーダーに e-License を設定」をクリックします。

以下の手順に従って ALM の設定を行ってください。なお、過去に同一製品の ALM 設定を行っている場合は、ダウンロード済みのライセンスセットアップファイルと製品のインストーラをご利用いただくことができます。その際にも ALM の設定については、オーダーごとに LWS にて行う必要がございます。ただし、ALM 機能をオフで運用される場合のみ、一度 LWS にて設定を行っていただきましたら、オーダーごとに LWS の設定をする必要はございません。過去に設定したライセンスセットアップファイルを再度ダウンロードされる場合は、「ライセンスセットアップファイルのダウンロード」をご選択ください。

注意 ライセンスセットアップファイル作成は、製品ごとに行う必要がございます。



CLP で製品をご購入のお客様へ

LWS にて ALM の設定を行える権限は、Ship to ID が発行されている方に限られます。通常 Ship to ID は、製品ご購入者に発行されており、End User ID が発行されている方（CLP のご契約者）には権限がございません。ただし、ご契約者を製品ご購入者として登録された際には、ご契約者に Ship to ID が発行されます。

なお、Ship to ID と End User ID の違いは、以下の URL にてご確認くださいませ。

<http://www.adobe.com/jp/special/aoo/clp/page7.html>

2. 設定手順の概要を読んでから、「開始」をクリックします。

Worldwide Licensing
Adobe

ホーム | ヘルプ | お問い合わせ | 日本語 (変更) | ログアウト
サインイン名: KATHY YOUNG

e-License概要

この処理は、システム管理の方が行ってください。現時点でe-License取得が必要な製品はAcrobatのみです。システム管理の経験がない場合は、設定を開始する前に御社のシステム管理者やライセンス管理担当者と相談してください。

このプロセスは4段階の手順からなり、約15分で完了します。まずこのページを読んだ上で、下部の開始ボタンを押して設定作業を開始してください。

- 1 オーダーを選択**
設定するオーダーを選択 [e-License](#).
- 2 e-Licenseの運用方法を選択 (e-Licenseをユーザにダウンロードさせるためのサーバの選択)**
 - > 使用するサーバ運用方法を以下の4つのうちから選択してください。個別設定はせずに「シリアル番号のみ」でアドビライセンスサーバにて運用、個別に詳細設定した「アドビライセンスサーバ」にて運用、ローカルサーバ (お客様で用意するサーバ) ([Adobe License Server Tool について](#))、ローカルサーバとアドビライセンスサーバを「混在」させての運用
 - > 次のステップでは、ローカルサーバまたはアドビライセンスサーバに置くe-Licenseの数を割り当て指定します。
- 3 選択項目の確認**
 - > 選択項目を確認し、実行する前に必要に応じて更新してください。
 - 注意: 一度選択した項目については取り消すことはできません。必ず確認するようにご注意ください。
- 4 ファイルのダウンロード**
 - > インストーラーに含まれるクライアント用セットアップファイル (「シリアル番号のみでの運用」を選択した場合に不要です) およびライセンスサーバファイル (e-Licenseの運用方法として「ローカルサーバによる運用」または「現在による運用」を選択した場合) を保存するためのディスク空き容量が十分であることを確認してください。<注意>ユーザにアプリケーションをインストールしてもらう際、所定のインストールディレクトリにクライアント用セットアップファイルを必ず入れる必要がありますのでご注意ください。

この画面を再度表示しない。

3. ALM の設定を行うオーダーを選択します。アドビオーダー番号は、オーダー詳細をクリックして確認いただけます。

また、アドビオーダー番号の横にある三角マークをクリックすると、オーダーされた製品情報が表示されます。なお、ALM 対応製品以外の製品は表示されません。

ALM の設定を行うオーダーを選択した後、「次へ」をクリックします。

注意 一度 LWS 上にて ALM の運用設定を行われると、後から変更することはできません。ご検討の上ご選択ください。ただし ALM の設定はオーダーごとに行えますので、オーダー単位で ALM の運用方法を選択することができます。

Worldwide Licensing
Adobe

ホーム | ヘルプ | お問い合わせ | 日本語 (変更) | ログアウト
サインイン名: KATHY YOUNG

オーダーしたライセンスにe-Licenseを設定

→ 1. オーダーを検索 → 2. e-License運用方法の選択 → 3. 選択項目の確認 → 4. ファイルのダウンロード

結果

下記に表示されているオーダーについては、e-Licenseが設定されていません。もしくは設定中です。

選択	アドビオーダー番号	注文書	オーダー日	プログラム種類
<input type="radio"/>	<input type="button" value="▶"/> 0070756455	(注文書番号の記載はありません)	19-OCT-2006	CLP
<input type="radio"/>	<input type="button" value="▶"/> 0130063766	(注文書番号の記載はありません)	21-OCT-2006	FLP

4. ALM に関する注意事項をご確認いただき、「開始」ボタンをクリックします。

e-License の無効化（ALM 機能のオフ）を行う場合は、「変更する」をクリックし設定を変更してください。ALM 機能をご利用されない場合はこちらをご選択ください。e-License の無効化を行われた場合も、製品インストール時にはクライアントセットアップファイルは必要になります。

e-License の無効化については 21 ページをご参照ください。

Worldwide Licensing
Adobe

ホーム | ヘルプ | お問い合わせ | 日本語 (更新) | ログアウト
サインイン名: KATHY YOUNG

オーダーしたライセンスに e-License を設定：e-License の開始

重要！注意！ ALM機能を無効にした場合であっても、クライアントセットアップファイルはインストールに含める必要があります。ご注意ください。アドビでは、e-Licenseのご使用を推奨いたします。

アドビは、今後ライセンスプログラムにおいて、Adobe License Manager (ALM)という電子ライセンス(e-License)管理機能を従来リリースする主要なデスクトップ製品に順次搭載していきます。e-Licenseによるライセンス管理は、ライセンスを見える形で管理できるようにし、ライセンス管理を自動化します。クライアントマシンに何のソフトウェアがインストールされているか調査する必要があったこれまでのライセンス管理の負担が軽減されます。ユーザーへのインストール時に一度設定をすれば、アドビのソフトウェアライセンスの使用状況が自動的に把握できるようになります。

ALMが搭載される製品については、是非e-Licenseによる管理を開始していただくことを強くお勧めいたします。しかしながら、すでに他のライセンス管理ツールやソフトウェア配布のシステムを導入されているお客様については、ALM機能を無効にするオプション（期間限定）をご用意しております（但し、無効にした場合クライアントセットアップファイルはインストールに含める必要がありますのでご注意ください）。しかしながら、すでに他のライセンス管理ツールやソフトウェア配布のシステムを導入されているお客様については、ALM機能を無効にするオプション（期間限定2007年まで予定）をご用意しております（但し、無効にした場合クライアントセットアップファイルはインストールに含める必要がありますのでご注意ください）。

注意！）詳細版のご使用に関してはALM機能を無効にするオプションはごさいません。必ずALM e-Licenseを設定してください。

現在 **ALM(e-License)** の設定: e-License を使って管理

この画面を再度表示しない。

会社 | 利用規約 | プライバシーポリシー | アクセシビリティ | ソフトウェアの不正コピー防止 | 著作権と商標について | 製品利用許諾契約書

5. 「ライセンス運用方法」欄で、希望する運用方法をオーダー製品ごとに選択します。「混在サーバ管理」を選択している場合は、ローカルサーバに割り当てる e-License の数を入力します。すると残りの e-License 数が自動計算され、Adobe ライセンスサーバに割り当てられます。「次へ」をクリックします。

オーダーしたライセンスに e-License を設定

→ 1. オーダーを検索 → 2. e-License 運用方法の選択 → 3. 選択項目の確認 → 4. ファイルのダウンロード

ご注文の e-License (ALM 対応製品) について、e-License の運用方法を選択してください。次の 4 つのオプションの中から選択できます。1# ローカルサーバ、Adobe ライセンスサーバ、混在 (ローカルサーバと Adobe ライセンスサーバ両方での運用)、シリアル番号のみ

注文書番号 (注文書番号の記録はありません)
アドビオーダー番号 0070756455

ライセンス製品	ライセンス数	ライセンス運用方法	ローカルサーバ	Adobe ライセンスサーバ (アドビが提供するダウンロードサーバ)	シリアル番号のみ
Acrobat Professional 8.0 WIN ADO License 1E EVAL	15	混在サーバ管理	11	4	0
Acrobat 8.0 WIN ADO License 1E EVAL	25	混在サーバ管理	15	25	0

注意：ローカルサーバを選択した場合はライセンスサーバソフトウェアをダウンロードする必要があります。アドビでは、以下のオペレーティングシステムで利用可能なライセンスサーバソフトウェアを提供しています。

Windows XP/SP2 | Windows Server 2003 | Mac OS 10.4

6. 「Adobeライセンスサーバ」「混在サーバ」をご選択された場合のみ表示

コンピュータ名の表示方法をご選択いただけます。以下の3種類から選択し「次へ」をクリックします。推奨オプションは「アドビライセンスサーバに送信して記録」です。記録された場合、コンピュータ名はそのお客様とアドビライセンスコールセンターのみがアクセスできる、別のシステムに保存されます。アドビでは、レポートの目的およびカスタマーサポートが必要な場合にのみコンピュータ名を使用し、いかなる第三者にもこの情報を提供することはありません。

アドビライセンスサーバに送信して記録 (推奨)

このオプションを選択すると、ユーザが e-License をダウンロードする際にマシン（コンピュータ）名も一緒に送信されます。これにより、e-License をダウンロードしたコンピュータを追跡できるようになります。

アドビライセンスサーバに送信して破棄

このオプションを選択すると、ユーザが e-License をダウンロードする際にマシン（コンピュータ）名も一緒にアドビのサーバに送信されますが記録はされません。コンピュータ名を取得するかどうかまだ判断できない場合は、このオプションをご選択ください。この設定を選択すると、後でインストール済みのアドビソフトウェアにまったく影響を与えることなく「マシン名を表示する」をクリックするだけで設定を変更する事が可能です。既にインストール済みのクライアントセットアップファイルを再度インストールする必要はありません。

送信しない

これは、マシン（コンピュータ）名が送信されないように指定するオプションです。この設定を後で変更する場合、別のクライアントセットアップファイルを含んだインストーラでユーザに再度インストールしてもらう必要があります。

Worldwide Licensing
Adobe

ホーム | ヘルプ | お問い合わせ先 | 日本語 (変更) | ログアウト
サインイン名: KATHY YOUNG

オーダーしたライセンスにe-Licenseを設定

→ 1. オーダーを検索 → 2. e-License運用方法の選択 → 3. 選択項目の確認 → 4. ファイルのダウンロード

マシ名を表示の設定

必ずご確認ください重要な情報：

マシン名の表示
アドビライセンスサーバにe-Licenseの運用方法に選択した場合、下記を選択し設定する事が必要となります。ここで設定するe-Licenseの使用状況レポートに反映されます。どれを選択しても必ず目付けは表示されるため、いつダウンロードが完了したかを把握できます。更に下記から選択していただくだけでなく、誰がダウンロードしたかわかるようにマシン名を表示する事も可能です。下記つから選択してください。

プライバシー
マシン名情報はライセンスをダウンロードする時のみアドビのサーバに送信されます。マシン名情報はe-Licenseシステムでユーザにレポートする際のみ使用されます。このマシン名情報がアドビ以外の第三者と共有されたり、マーケティングの目的で利用されることは一切ありません。

マシン名表示方法を選択：

注意：この設定は、アドビライセンスサーバに適用されます。#設定の変更は今後のライセンスオーダーに反映されますが、過去のオーダーには影響しません。

- アドビライセンスサーバに送信して記録 (推奨)
このオプションを選択すると、ユーザがe-Licenseをダウンロードする際にマシン名も一緒に送信されます。これにより、e-Licenseをダウンロードしたマシンを追跡できるようになります。
- アドビライセンスサーバに送信して破棄
このオプションを選択すると、ユーザがe-Licenseをダウンロードする際にマシン名も一緒にアドビのサーバに送信されますが記録はされません。この設定を選択すると、後でインストール済みのアドビソフトウェアにまったく影響を与えることなく「マシン名を表示する」をクリックするだけで設定を変更する事が可能です。既にインストール済みのクライアント用ライセンスセットアップファイルを再度インストールする必要はありません。
- 送信しない
これは、マシン名が送信されないように指定するオプションです。この設定を後で変更する場合、別のクライアントセットアップファイルを含んだインストーラでユーザに再度インストールしてもらう必要があります。

注意：マシン名の表示に関して記載されている条件に同意します。

キャンセル 戻る 次へ

7. 選択した内容を「選択項目の確認」画面で確認します。選択内容を編集するには、「変更する」ボタンをクリックします。設定内容が確定しましたら「送信」をクリックしてください。

重要 送信後は変更できません。入力内容を充分にご確認ください。

Worldwide Licensing
Adobe

ホーム | ヘルプ | お問い合わせ | 日本語 (変更) | ログアウト
サインイン名: KATHY YOUNG

オーダーしたライセンスにe-Licenseを設定

→ 1. オーダーを検索 → 2. e-License適用方法の選択 → 3. 選択項目の確認 → 4. ファイルのダウンロード

送信する前に、選択したe-License適用方法を下記で再度確認してください。送信した後は設定を変更することはできないので十分ご注意ください。変更したい場合は、下の「変更する」ボタンをクリックしてください。この内容でよろしければ送信してください。

注文番号(注文番号の記載はありません)
アドビオーダー番号0070756455

マシン名の表示の選択: アドビライセンスサーバに送信して記録

ライセンス対応製品	ライセンス数	ライセンス運用方法	ローカルサーバ	Adobeライセンスサーバ (アドビが用意するダウンロードサーバ)	シリアル番号のみ
Acrobat Professional 8.0 WIN ADD License IE EVAL	15	Adobeライセンスサーバ	0	15	0
Acrobat 8.0 WIN ADD License IE EVAL	25	運用サーバ管理	5	20	0

キャンセル 変更する 送信

重要: 送信後は変更できません。入力内容を充分にご確認ください。

8. 「クライアントセットアップファイルのダウンロード」欄にあるアイコンをクリックし、オーダー製品ごとにクライアントセットアップファイルをダウンロードします。「シリアル番号のみ」をご選択いただいた場合は、クライアントセットアップファイルは必要ございません。

クライアントセットアップファイルには、e-License を取得する場所や、ALM 設定に関する必要な情報が含まれています。

また、クライアントセットアップファイル名にはネーミングルールがあります。例えば、Acrobat-8.0-ALL-PS-LOC.xml という名前であれば、Adobe Acrobat 8 のセットアップファイルであることを示します。拡張子の前にある最後の3文字は、ALM の運用方法を示します。ローカルサーバの場合は LOC、Adobe ライセンスサーバの場合は REM となります。複数製品のクライアントセットアップファイルをダウンロードした場合、ファイルの区別にお役立てください。

Worldwide Licensing
Adobe

ホーム | ヘルプ | お問い合わせ | 日本語 (変更) | ログアウト
サインイン名: KATHY YOUNG

オーダーしたライセンスにe-Licenseを設定

→ 1. オーダーを検索 → 2. e-License適用方法の選択 → 3. 選択項目の確認 → 4. ファイルのダウンロード

e-Licenseの運用方法について選択いただいた内容が正しく送信されました。
必要に応じて以下のクライアントセットアップファイル、およびサーバソフトウェアをダウンロードしてください。

このリンクをクリックして、クライアントセットアップファイルおよびアドビのライセンスサーバソフトウェアをダウンロードしてください。

Adobeクライアントセットアップファイル (容量: 35KB)

注文番号(注文番号の記載はありません)
アドビオーダー番号0070756455

各クライアントセットアップファイルには、Adobeアプリケーションがインストールされているマシンで使用するe-Licenseの取得に必要な情報が含まれています。

ライセンス対応製品	ライセンス数	ライセンス運用方法	クライアントセットアップファイルのダウンロード
Acrobat Professional 8.0 WIN ADD License IE EVAL	15	Adobeライセンスサーバ	
Acrobat 8.0 WIN ADD License IE EVAL	5	ローカル	
Acrobat 8.0 WIN ADD License IE EVAL	20	Adobeライセンスサーバ	

クライアントファイルの選択

クライアントセットアップファイルには、アプリケーションなどのライセンスファイルのe-Licenseが必要かが含まれています (Adobeライセンスサーバ、ローカルサーバ、または既定なし)。システム管理権限、各エンドユーザのコンピュータ上にインストールされるAdobeアプリケーションのファイルを設定する必要があります。

注意: シリアル番号による運用方法を選択した場合に限り、クライアント用ライセンスセットアップファイルは不要になります。

クライアントセットアップファイルに関する注意

1. Acrobat® Elements、Acrobat Professional、Acrobat 3D など、同じ製品であれば、その製品で同じサーバの運用方法（ローカルサーバまたは Adobe ライセンスサーバ）を使用している限り、ダウンロードが必要なクライアントセットアップファイルは 1 つだけです。このセットアップファイルを各インストールに対して使用できます。
2. 一度設定したクライアントセットアップファイルは、LWS トップページにある「ライセンスセットアップファイルのダウンロード」をクリックすることにより、いつでもダウンロードできます。



9. 「ローカルサーバ」「混在サーバ」をご選択の場合

ローカルサーバの OS に応じて、OS のリンクをクリックして適切な Adobe License Server ソフトウェアをダウンロードします。

次に、ローカルサーバに Adobe License Server ソフトウェアにインストールしていただき、各種設定を行ってください。

Adobe License Server ソフトウェアの詳細、インストール、設定については、www.adobe.com/jp/elicensing で入手いただけます「**Adobe License Server Tools ユーザガイド**」を参照ください。

注意 Adobe License Server ソフトウェアは、ローカルサーバ 1 台に対して、1 度だけダウンロードする必要があります。過去にサーバをセットアップして Adobe License Server を使用している場合、オーダーごとにツールをダウンロードする必要はありません。



e-Licenseの無効化(ALM機能のオフ)について

アドビは、今後ライセンスプログラム(TLP、CLP)において、将来リリースする主要なデスクトップ製品にALM機能を順次搭載していきます。e-Licenseによるライセンス管理は、ライセンスを見える形で管理できるようにし、ライセンス管理を自動化します。これまで端末に、何のソフトウェアがインストールされているか調査するには人手やコストがかかっていましたが、このような負担から解放されます。ALMが搭載される製品については、是非e-Licenseによる管理を開始していただくことをお勧めいたします。

しかし、すでに他のライセンス管理ツールやソフトウェア配布のシステムを導入されているお客様を想定し、ALM機能をオフにするオプションを2007年11月(予定)までご用意しております。なお、e-Licenseの無効化を選択する場合でも、LWS上でのALM設定が必要になり、製品インストール時にはクライアントセットアップファイルが必要になります。ALMの設定を行い、クライアントセットアップファイルをダウンロードしてください。

ALM機能をオフにする詳しい手順については、www.adobe.com/jp/elicensing にございます「ALM機能をオフにする際のインストール手引き」にてご確認ください。

注意 一度LWS上にてe-Licenseの無効化(ALM機能のオフ)を設定されると、そのオーダーに対してALM機能をオンに変更することはできません。ご検討の上ご選択ください。ただしALMの設定はオーダーごとに行えますので、オーダー単位でALM機能を利用したり、オフにする設定を行います。



*実際の画面と異なる場合がございます。

4 インストーラの準備

Adobe ライセンスサーバ、ローカルサーバ、混在サーバ、ALM 機能のオフ（e-License の無効化）を選択した場合、いずれもクライアントセットアップファイルをダウンロードし、以下に記載のインストールの準備が必須となります。

注意 Adobe ライセンスサーバ方式の 1 つである「シリアル番号のみ」を選択した場合には、クライアントセットアップファイルは不要です。以下の手順を行っていただく必要はございません。LWS にて ALM 設定を行われた後、製品のシリアル番号を入力していただくことにより、製品のご利用、ALM の運用を開始していただくことができます。

1. LWS からダウンロードしたクライアントセットアップファイルの名前を「**adobeconfig.xml**」に変更します。OS の設定によっては、ファイルの拡張子が表示されておりません。拡張子が表示されていない場合はファイル名が「Acrobat-8[1].0-ALL-PS-REM」と表記されています。その場合は、「adobeconfig」とファイル名を変更してください。拡張子が表示されない設定で「adobeconfig.xml」に変更された場合はインストール時にエラーが発生します。



注意 この変更を行わないと、アプリケーションのインストーラがこのセットアップファイルを検出できなくなり、e-License がクライアントコンピュータにダウンロードされなくなります。必ず変更してください。

2. クライアントセットアップファイル（**adobeconfig.xml**）をテキストエディタで開き、編集を行います。この編集作業は、ローカルサーバ、混在サーバをご選択いただいたお客様のみ必須の作業です。お客様がローカルにご用意いただいたサーバのディレクトリ情報を書き込みます。編集の詳細については、www.adobe.com/jp/elicensing で入手いただけます「**Adobe License Server Tools ユーザガイド**」を参照ください。なお、混在サーバの場合は、Adobe ライセンスサーバ用とローカルサーバ用のクライアントセットアップファイルの 2 種類をご用意いただく必要がございます。

ダイアログを表示させない方法

初期設定では、ユーザが製品を起動した際に e-License を取得するようにダイアログ表示されるよう設定されています。クライアントセットアップファイルを編集することにより、ダイアログを表示させないで e-License を自動的に取得するように設定を変更することができます。

設定の変更が行われる場合は、インストール前に次の手順を行ってください。

1. クライアントセットアップファイル (adobeconfig.xml) をテキストエディタで開いてください。
2. 以下表記の **Verbose** を **SilentLicenseDownload** に書き換えてください。
3. クライアントセットアップファイルを保存してください。
4. 設定を変更したクライアントセットアップファイルを利用して以下の手順にお進みください。

adobeconfig.xml

```
-->
<AdobeConfigVersion>1.1</AdobeConfigVersion>
<!--
  ** 編集可能セクション開始 : ユーザ環境設定 *****

      LicenseDownloadOptions : エンドユーザがライセンスダウンロードのダイアログとオプションを
                              参照できるようにするかどうかを指定します。

                              [値]
                              - Verbose : ユーザが e-License のダウンロードダイアログを参照できます。
                              - SilentLicenseDownload : アプリケーションは、ユーザにメッセージを表示すること
                                なく、e-License のダウンロードを試みます。エラーが発生した場合はメッセージを表示し、
                                ユーザが猶予期間内での使用を開始することを選択できるようにオプションを表示します。
                              - AllSilent : アプリケーションは、ユーザにメッセージを表示することなく、e-License の
                                ダウンロードを試みます。アプリケーションは、エラーが発生した場合もメッセージを表示せず、
                                自動的に猶予期間内での使用を開始します。
                                (注意 ... 猶予期間が終了したとき、ユーザはメッセージを受け取ります。 )

      SendHostName : このアプリケーションのライセンスを取得しているマシンを追跡する
                    ために、マシン名を Adobe に送信するかどうかを指定します。

                    [値]
                    - true : マシン名を送信して Adobe ライセンス Web サイトに記録します。
                    - false : マシン名を送信しません。

-->
</UserPreferences>
<LicenseDownloadOptions>SilentLicenseDownload</LicenseDownloadOptions>
<SendHostName>true</SendHostName>
</UserPreferences>
<!--
  ** 編集可能セクション終了 *****
```

お客様に適したインストール方法をご選択ください

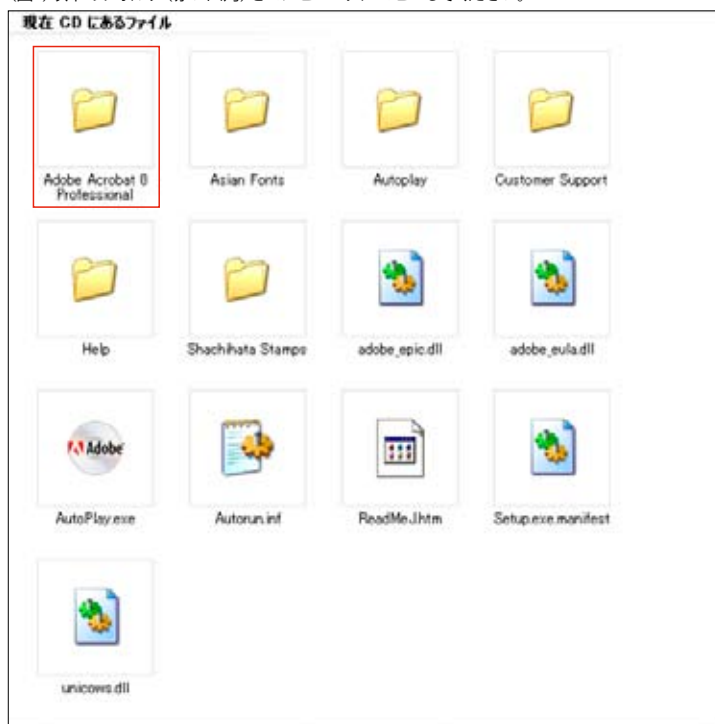
これ以降の手順は、ALM 用のインストーラを作成し、CD-R で配布を行ったり、ファイルサーバやソフトウェア配布ツールを利用してインストールを行う方法になります。

なお、少数のコンピュータに対してインストールされる場合や ALM 用のインストーラを作成するのが難しい場合は、29 ページの「少数のインストールに適したインストール方法」をご確認ください。この場合も、ダウンロードしたクライアントセットアップファイルは必要になりますが、ALM 用のインストーラを作成する必要はございません。イメージディスクを作成してセットアップされる場合も、この方法でイメージディスクを作成していただくことができます。

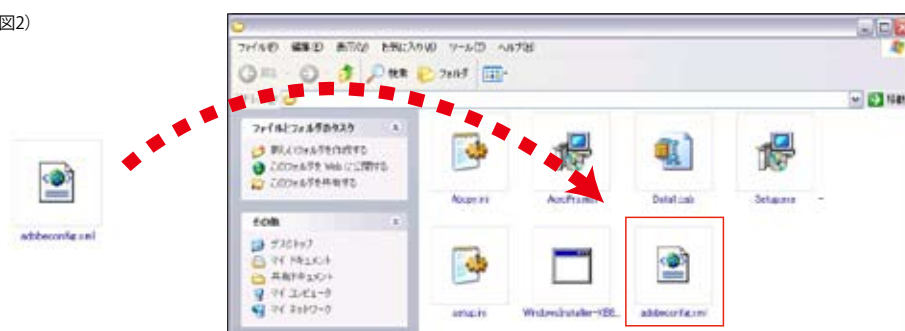
3. 製品のインストーラ CD から、インストーラフォルダをコンピュータにコピーしてください。(図1) 次にクライアントセットアップファイル (adobeconfig.xml) をインストールファイルと同じフォルダ (ディレクトリ) に移動してください。(図2) その際、フォルダ名が半角英数文字であることをご確認ください。日本語や全角文字でフォルダ名がつけられている場合は、正しくインストールされません。

注意 製品をインストールする際は、必ずクライアントセットアップファイルをインストーラと同じフォルダ (ディレクトリ) に移動する必要があります。手順を行っていない場合はユーザが e-License を取得できません。e-License を取得していない ALM 対応製品は、最初に製品を起動してから 30 日後にご利用いただけなくなります。

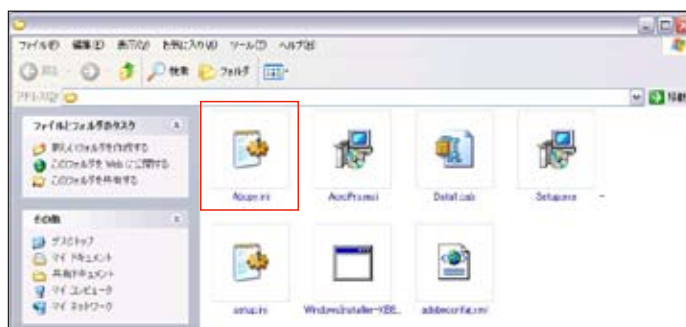
(図1) 以下のフォルダ (赤い四角) をコンピュータにコピーしてください。



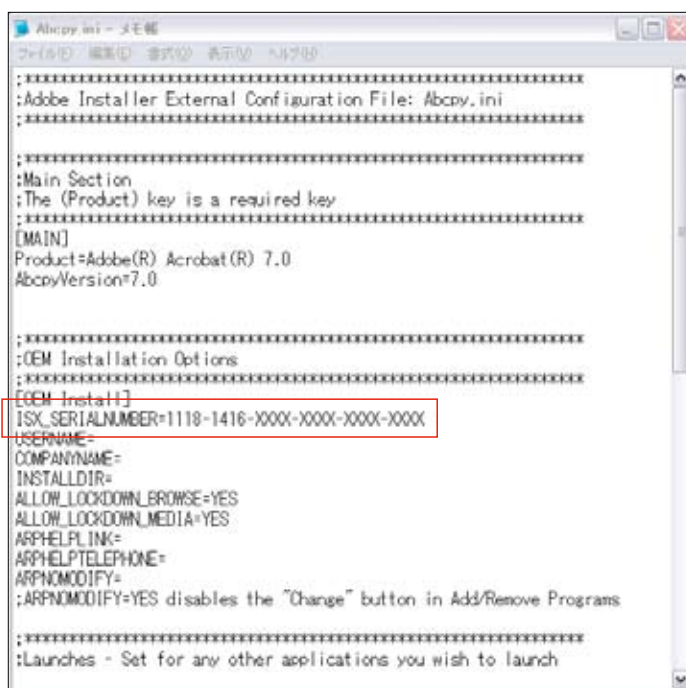
(図2)



4. インストーラフォルダ内にある「abcpy.ini」ファイルを、メモ帳などのテキストエディタで開きます。



「ISX_SERIALNUMBER=」の後に、シリアル番号を入力して上書き保存します。製品のシリアル番号はLWSにて確認いただけます。なお、シリアル番号は製品ごとに異なります。



注意 シリアル番号はすべて半角英数文字で入力してください。ハイフン (-) も半角英数文字での入力が必要です。

5. CD-R (DVD-R) でインストールの際は、作成したインストーラフォルダを複製してインストール CD を作成してください。インストール CD のボリューム名も半角英数文字をご利用ください。日本語や全角文字でボリューム名がつけられている場合は、正しくインストールされません。

(例) Acrobat 8 のインストーラを CD-R に複製する際にボリューム名を "Acrobat 8 temp" にする。

ファイルサーバからのインストール、Microsoft SMS などのソフトウェア配布ツールでのインストールの場合は、作成したインストールフォルダを必要な場所に複製してください。なお、インストーラを起動する際に、フォルダ名やインストーラのフォルダが置かれている上位階層のディレクトリ名に日本語や全角文字が使用されている場合、正しくインストールが行われません。半角英数文字を使用していただく必要があります。ファイルサーバの上位階層ディレクトリに日本語や全角文字が使用されている場合は、一旦ユーザの端末にインストーラのフォルダを複製してからインストールを開始してください。その際は、複製先の階層にご注意ください。複製していただく上位階層のディレクトリ名も半角英数文字である必要があります。ハードディスクドライブの一番上の階層（C ドライブ等）に複製していただくか、すべての上位階層ディレクトリが半角英数文字を使用している階層に複製してください。または、ファイルサーバのすべての上位階層ディレクトリ名を半角英数文字にしていれば、ファイルサーバから直接インストーラを起動することができます。ここまでが管理者の作業となります。

フォルダ名、階層名には日本語、全角文字は使用できません

(例)

Acrobat8 日本語版 → 半角英数にする → Acrobat8temp

アドレス(D) C:\Documents and Settings\Suzuki\Desktop\アドビ製品\Acrobat8temp

階層すべてが半角英数である必要があります。

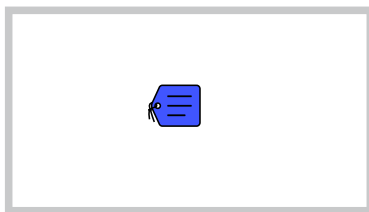
アドレス(D) C:\Acrobat8temp

ALM対応製品のインストールとe-Licenseの取得ガイドについて

次のページより製品のインストールと e-License の取得についてご案内します。お客様によっては、ALM 用のインストーラを作成される管理者の方と、製品のインストールを行い e-License の取得をされる方が異なる場合がございます。その際に管理者の方から、インストールを行われるユーザ向けに配布していただける手引きをご用意しております。この手引きでは、ALM の設定や ALM 用のインストーラの作成については触れておらず、インストール方法と e-License の取得について特化した内容になっております。管理者の方はこちらの手引きを配布していただくことにより、ユーザに ALM 対応製品のインストールについてご案内していただくことができます。なお、配布される前に LWS にて ALM の設定行なってください。また、ALM 用のインストーラを作成し配布していただく必要がございます。この手引きは「Adobe ライセンスサーバ」「ローカルサーバ」「混在サーバ」「シリアル番号のみ」で運用されるお客様が想定されております。ユーザ配布用の手引き書は以下のアイコンにファイルが添付されています。アイコンをダブルクリックしていただくことでファイルを開くことができます。

ALM 用インストーラによる製品のインストール～ユーザ編～

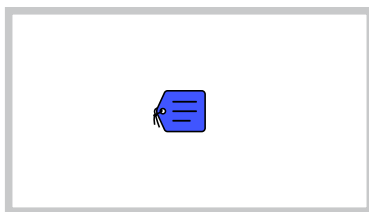
「Adobe ライセンスサーバ」「ローカルサーバ」「混在サーバ」をご運用の場合



アイコンをダブルクリックしていただくとファイルが開きます。

ALM 用インストーラによる製品のインストール～ユーザ編～

「シリアル番号のみ」を運用の場合



アイコンをダブルクリックしていただくとファイルが開きます。

5 ユーザによる製品のインストールとe-Licenseの取得

1. インストーラを起動します。「Setup.exe」ファイルをダブルクリックしてください。

CD-R/RW からインストールの場合

インストーラを CD-R/RW から直接起動してください。

ファイルサーバからインストールの場合

インストーラフォルダをクライアントマシンにコピーしてからインストールを開始される際には、コピーを行う場所（ディレクトリ）にご注意ください。ハードディスクドライブの一番上の階層（C: ¥）に複製していただくか、すべての上位階層ディレクトリが半角英数を使用している階層に複製してください。

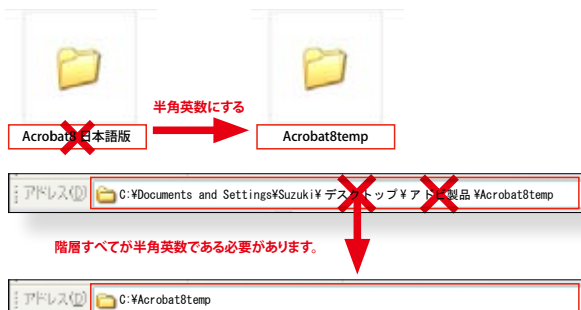


重要 インストーラを起動する際に必要な確認事項

インストーラのフォルダ名に日本語や全角文字が使用されていると正しくインストールが行われません。また、インストーラのフォルダが置かれている上位階層のディレクトリ名に日本語や全角文字が使用されている場合も同様に正しくインストールが行われません。ファイル名や、すべての上位階層のディレクトリ名に半角英数文字を使用していただく必要があります。

なお、インストールを実行する先のフォルダ名については日本語や全角を含んでも問題ございません。

(例)



2. シリアル番号を入力して製品をインストールします。「abcpy.ini」に入力したシリアル番号が自動表示されます。正しく表示されていない場合は、シリアル番号を再入力してください。製品のシリアル番号はLWSにてご確認ください。なお、シリアル番号は製品ごとに異なります。ユーザ名、所属を入力し、ダイアログに従ってインストールしてください。



3. インストールが完了しましたら、OS を再起動し製品を起動してください。

4. 製品を起動すると e-License 取得のダイアログが表示されます。(設定によりダイアログが表示されない場合もございます) ダイアログにて所定のボタンをクリックすることにより、指定されたサーバから e-License を取得します。なお、e-License のダイアログが表示されるのに数十秒かかる場合がございます。e-License の取得が行えなかった場合は、次ページの「**e-License のダウンロードができなかった場合**」をご確認ください。なお、ALM 機能をオフ (e-License の無効化) にしたクライアントセットアップファイルを利用した場合はダイアログは表示されません。

注意 ローカルサーバ、混在サーバをご選択いただいた場合は、事前にローカルサーバのセットアップが必要となります。サーバのセットアップについては、www.adobe.com/jp/elicensing で入手いただけます「Adobe License Server Tools ユーザガイド」を参照ください。



5. ALM 製品が継続して利用できる状態になり、サーバからライセンスの運用状況を確認していただける状態となります。

6. ALM 機能を利用したライセンス管理レポート作成や、電子メールによるアラート機能については www.adobe.com/jp/elicensing をご参照ください。

6

e-Licenseのダウンロードができなかった場合

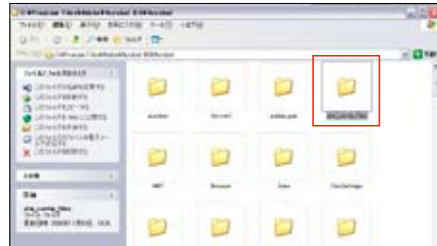
1. 製品を一旦終了してから、インストールを完了した製品フォルダ内の「alm_config_files」フォルダを開いてください。(※1)

通常、「alm_config_files」フォルダは以下のディレクトリにございます。

C: ¥Program Files ¥Adobe ¥Acrobat 8.0 ¥Acrobat ¥alm_config_files

2. 「alm_config_files」フォルダ内にある「adobeconfig.xml」ファイルを削除してください。(※2)

(※1)

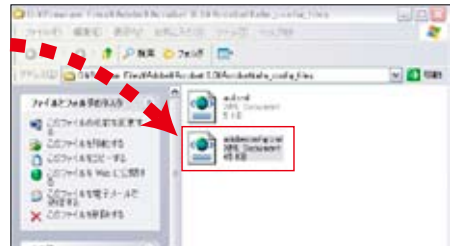


(※2)



3. インストーラフォルダ内 (CD-R、ファイルサーバ) にある「adobeconfig.xml」ファイルを「alm_config_files」フォルダにコピーしてください。(※3)

(※3)



4. 製品を起動し、e-Licenseを取得してください。

ダイアログにて所定のボタンをクリックすることにより、指定されたサーバから e-License を取得します。なお、e-License 取得のダイアログが表示されるのに数十秒かかる場合がございます。

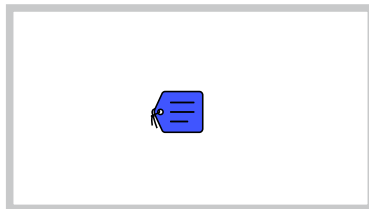
ここでも e-License の取得が行えなかった場合は、トラブルシューティング (36 ページ) をご確認ください。



少数のインストールに適した方法

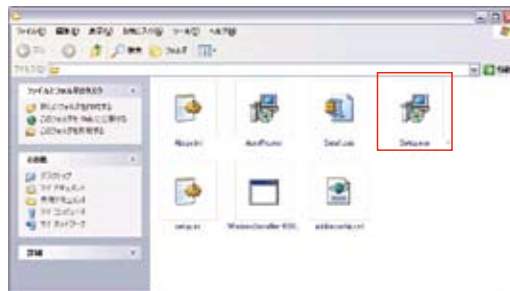
ここでは、ALM 対応製品を少数のコンピュータに対してインストールされる場合や、ALM 用のインストーラを作成しての運用が難しい場合のインストール方法をご案内します。LWS からダウンロードしたクライアントセットアップファイル (adobeconfig.xml) と製品のインストール CD をご用意ください。なお、「少数のインストールに適した方法」を抜粋した PDF も別途ご用意しております。インストールを行う方に配布される場合は、以下のアイコンをダブルクリックしてください。資料が添付されております。

少数のインストールに適した方法



アイコンをダブルクリックしていただくとファイルが開きます。

1. 製品のインストーラを起動します。「Setup.exe」ファイルをダブルクリックしてください。インストーラは、販売されている製品のインストール CD (ライセンス用) をご利用いただけます。

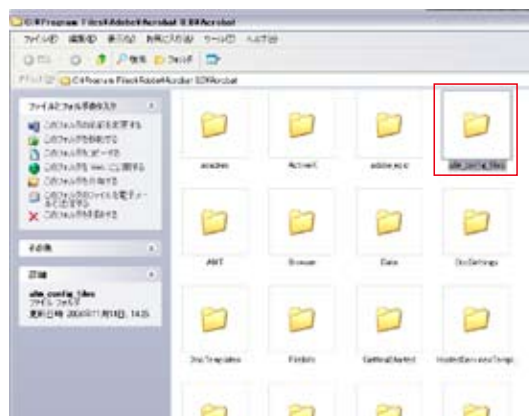


2. シリアル番号を入力して製品をインストールします。ユーザ名と所属も入力してください。製品のシリアル番号は LWS にてご確認ください。なお、シリアル番号は製品ごとに異なります。

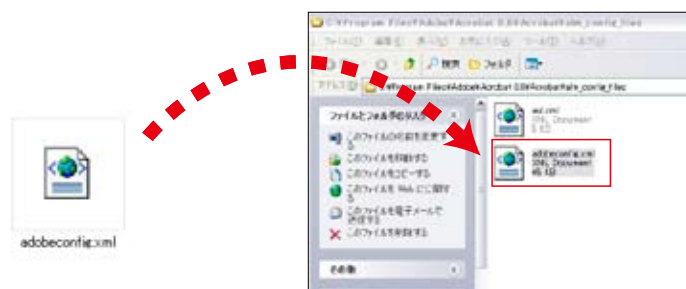


3. インストールを完了した製品フォルダ内の「alm_config_files」フォルダを開いてください。
通常、「alm_config_files」フォルダは以下のディレクトリにございます。

C: ¥ Program Files ¥ Adobe ¥ Acrobat 8.0 ¥ Acrobat ¥ alm_config_files



4. LWS からダウンロードした「adobeconfig.xml」ファイルを「alm_config_files」フォルダにコピー（上書き）してください。



注意 製品をインストールすると「alm_config_files」フォルダには「adobeconfig.xml」ファイルがすでに作成されています。しかし、この「adobeconfig.xml」ファイルは ALM 機能をオフにする設定ではございません。LWS からダウンロードしている ALM 機能をオフにした「adobeconfig.xml」ファイルを上書きしてください。

5. 製品を起動してください。

6. 製品を起動すると e-License 取得のダイアログが表示されます。（設定によりダイアログが表示されない場合もございます）ダイアログにて所定のボタンをクリックすることにより、指定されたサーバから e-License を取得します。

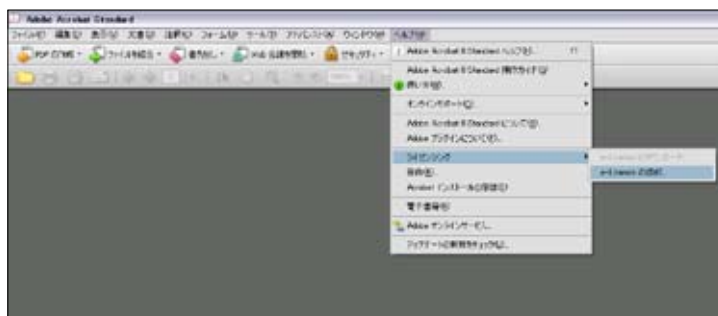


7. インストールが完了し、製品をご利用いただける状態となりました。

製品をアンインストールされる場合

製品をアンインストールされる際は、必ず e-License を返却してください。

1. 製品を起動してください。「ヘルプ」メニューから「ライセンス」の「e-License の返却」をクリックします。



2. e-License の返却をクリックしてください。



3. e-License が返却されました。返却された e-License は、別のコンピュータで取得することができます。製品をアンインストールしてください。



トラブルシューティング

ハードウェアの不具合やソフトウェアの問題により、アプリケーションの再インストールが必要な場合

製品をアンインストールする際に、手順に従って e-License の返却を行ってください。再インストールした後、再度 e-License を取得していただくことにより、製品をご利用いただくことができます。

OS やハードウェアの不具合により、e-License の返却が行えなかった場合、e-License は消失してしまいます。再発行の手続きはアドバイセンスコールセンターにご連絡ください。なお、e-License を再取得していない場合も、製品起動後の 30 日間は製品をご利用いただくことが可能です。30 日以内に手続きをしていただくことにより、製品を継続してご利用いただくことができます。

e-License が壊れた場合の e-License 再発行について

ハードウェアの不具合やソフトウェアの問題により e-License が壊れることがあります。製品の起動時に、壊れたライセンスを識別し修復を試みる機能が搭載されています。e-License を修復することができない場合は、アドバイセンスコールセンターにご連絡ください。

アドバイセンスコールセンター

TEL : 03-5350-7135

受付時間 : 9:30~17:30 (土曜、日曜、祝日、弊社指定休日を除く)

LWS にて購入した製品のオーダーが表示されず ALM の設定が行えない場合

以下の理由が考えられます。

1. 製品のオーダーをアドビシステムズで受け付けた際に、お客様あてに email をお届けしております。email が届いた直後にはシステムの関係上、ALM の設定が行えない場合がございます。しばらくたってから LWS に再度ログインしていただき、ALM を設定してください。なお、email が届いて 2 日経過しても ALM の設定が行えない状態の場合は、上記のアドバイセンスコールセンターまでご連絡ください。

2. CLP で製品をご購入をされたお客様は、End User ID と Ship to ID の違いにご注意ください。LWS にて ALM の設定を行える方は、Ship to ID が発行されている方です。Ship to ID の所有者が ALM の設定を行ってください。

通常 Ship to ID は、製品ご購入者に発行されております。End User ID が発行されている方 (CLP のご契約者) には権限がございません。ただし、ご契約者を製品ご購入者として登録された際には、ご契約者に Ship to ID が発行されます。

なお、Ship to ID と End User ID の違いは以下の URL にてご確認いただけます。

<http://www.adobe.com/jp/special/aoo/clp/page7.html>

3. ALM 対応製品のみ LWS で ALM 設定を行えます。ALM 対応製品以外のオーダーは設定を行えないため、設定画面には表示されません。

e-License 取得時に「e-License をダウンロードできませんでした」というエラーが表示された場合



以下の理由が考えられます。

1. LWS にて ALM の設定が行われていない

「Adobe ライセンスサーバ」「シリアル番号のみ」「ローカルサーバ」「ALM 機能のオフ (e-License の無効化)」をご選択の場合にご注意ください。

LWS にて ALM の設定がオーダーごとに行われているかご確認ください。

設定が行われていない場合は、LWS にてオーダーごとに ALM の設定を行ってください。ただし、ALM 機能をオフで運用される場合のみ、一度 LWS にて設定を行っていただきましたら、オーダーごとに LWS の設定をする必要はございません。

2. クライアントセットアップファイルが正しくインストールされていない

「Adobe ライセンスサーバ」「ローカルサーバ」「ALM 機能のオフ (e-License の無効化)」をご選択の場合にご注意ください。

本書の手順に従ってインストーラを作成し再インストールを行ってください。

または、32 ページにございます「e-License の取得が行えなかった場合」の手順を行ってください。その場合は製品を再インストールする必要はございません。

3. ローカルサーバの設定が行われていない、もしくは設定に誤りがある

「ローカルサーバ」をご選択の場合にご注意ください。

用意されたサーバに Adobe License Sever ソフトウェアをインストールして設定を行ってください。Adobe License Server ソフトウェアの詳細、インストール、設定については、www.adobe.com/jp/elicensing で入手いただけます「Adobe License Server Tools ユーザガイド」を参照ください。

クライアントセットアップファイルを使用しないで製品をインストールしてしまった場合

以下の2つの方法から選択してください。

●「シリアル番号のみ」でALMを運用する

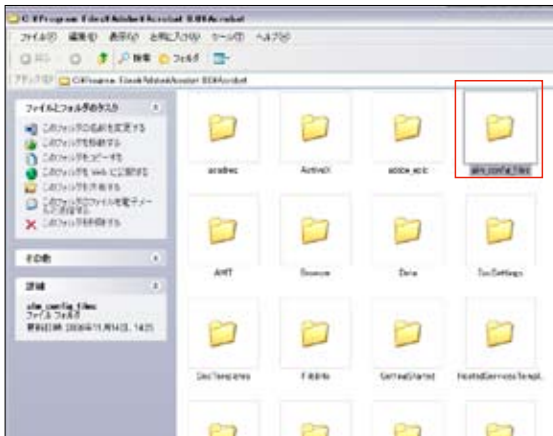
LWSにて、オーダーに対して「シリアル番号のみ」を設定してください。クライアントセットアップファイルを使用しないでALM機能を利用できます。LWSにて「シリアル番号のみ」を設定していただいた後に、e-Licenseを取得することで製品を継続して使用していただけます。製品を再インストールする必要はございません。

●インストール後にクライアントセットアップファイルを設定する

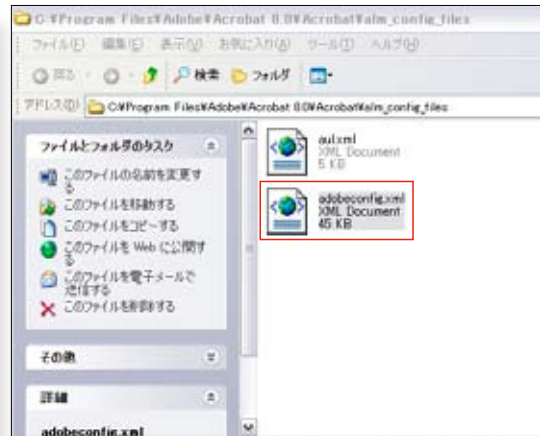
以下の手順にしたがって設定を行ってください。なお、この手順は「e-Licenseがダウンロードできなかった場合」と同様の手順です。

1. LWSでALMの設定を行い、クライアントセットアップファイルをダウンロードしてください。
2. クライアントセットアップファイルの名前を「adobeconfig.xml」に変更してください。
3. 製品を起動している場合は、一旦終了してください。
4. インストールを完了した製品のフォルダを開いてください。
5. alm_config_filesのフォルダを開いてください。(※1)
6. alm_config_filesのフォルダ内にクライアントセットアップファイルを置き、ファイルを上書きしてください。(※2)

(※1)



(※2)



e-Licenseを取得しないで製品を使い続けた場合

製品を起動してから30日後に製品がご利用いただけなくなります。30日以内にe-Licenseの取得をしてください。

e-Licenseの無効化(ALM機能のオフ)を選択されている場合は、e-Licenseを取得しなくても製品を継続的にご利用いただけます。

インストールCDの納品が遅れている場合

インストールCDの納期は、製品をご購入された販売会社様にご確認ください。お急ぎの場合は、アドビライセンスコールセンター(34ページ)にお問い合わせください。

Q&A

Q ALM にはどんなメリットがありますか？

A ALM は、ソフトウェアアプリケーションそのものではなくソフトウェアを使用する権利（ライセンス）を管理することを目的としており、ソフトウェアのライセンス管理に関する負担を大幅に軽減できるよう設計されています。具体的には、まず組織が必要な数のライセンスをライセンスプログラムで購入すると、それに応じた電子的なライセンス（e-License）がアドビより提供されます。次にユーザはシステム管理者が指定した方法でアプリケーションの e-License を取得します。すると ALM により、社内にインストールされている ALM 対応製品のライセンス全体の状況が目に見える形で把握できるようになり、ライセンスに関する重要イベントが発生した場合にはシステム管理者に警告されます。こうしたコアタスクを ALM で自動化すれば、システム管理者は e-License のダウンロード先の追跡や購入ライセンスとの照合を手作業で行う必要から開放されて、付加価値の高い業務に専念することができ、組織としても運用コストを下げる事が可能となります。

Q 社内のアドビライセンスについて、ALM はどんな情報を提供してくれるのですか？

A ALM では、ユーザがダウンロードした ALM 対応製品の e-License に関する情報や、e-License がダウンロードされたコンピュータなどの情報を、ほぼリアルタイムで表示できます。利用可能な e-License の本数を把握でき、ライセンスの追加購入が必要かという判断も簡単にできるようになります。さらに、システム管理者は ALM から情報を書き出すことができるので、他の目的で再利用することも可能です。

Q e-License がなくなると、どうなりますか？

A ユーザによって e-License がすべてダウンロードされてなくなると、オーバードラフトライセンスという一時的に割り当てられる e-License が付与されます。これによりユーザは追加費用を支払うことなく、必要に応じてソフトウェアの全機能をインストールして一時的に使用し、その追加分のライセンスの購入は後日アドビの規定による合理的な期間内（45 日間）に行うことも可能です。

Q どんな重要イベントが発生したときに、ALM からライセンスに関する警告が通知されるのですか？

A e-License 数が残りわずかになったり、またはすべてなくなった場合、ユーザがオーバードラフトライセンスをダウンロードした場合、割り当てられたオーバードラフトライセンスがなくなった場合などに、システム管理者と他の指定管理者に対して ALM から警告が email にて自動通知されます。

Q ユーザはいつ e-License をダウンロードすればよいのですか？

A ユーザはアドビアプリケーションの使用開始後 30 日以内に e-License をダウンロードするだけで結構です。一度ダウンロードすれば、同コンピュータ上で使い続けられますので、その後の手続きは必要ありません。

Q コンピュータを入れ替える場合やそのアプリケーションが不要になった場合、e-License はどうなりますか？

A ライセンスはそのコンピュータでしか使用できないというわけではありません。アプリケーションのメニューからオプションを選択するだけで、ユーザはいつでも e-License を返却でき、システム管理者は返却された e-License を他のコンピュータに割り当てることができます。また、ソフトウェアをアンインストールするには e-License をまず返却するよう案内が表示されません。

Q ALM を使用することで、そのソフトウェアのユーザの使い勝手に影響がありますか？

A ALM は、ユーザへの影響を最小限に抑えた設計になっています。また、システム管理者は ALM がユーザ側からまったく見えないように設定することもでき、それによってアドビ製品の使い勝手に損なわれることも一切ありません。システム管理者が e-License のダウンロードプロセスをどのレベルまでユーザに開示するかを決定できるので、既存の社内規程や手続きに沿った運用も可能です。

Q ALM を使用すると、どのように社内の e-License の使用状況を管理できるのですか？

A ALM を社内に展開する際には、ALM に対応したアドビデスクトップソフトウェアの特定製品について、e-License をダウンロードできるユーザやコンピュータを指定できるため、システム管理者はきめ細かなライセンス管理方法を構築することができます。

Q e-License のダウンロードサーバはどこに用意されますか？

A ユーザに e-License をどこからダウンロードしてもらうかは、アドビではなくシステム管理者が LWS にて決定します。e-License を保管する場所は、アドビが用意する Adobe ライセンスサーバとお客様のローカルサーバから選択できます。または、一方を Adobe ライセンスサーバに、もう一方をお客様のローカルサーバに置いておくことも可能です。ユーザに Adobe ライセンスサーバから e-License をダウンロードさせるようにする場合には、お客様のビジネスやプライバシー保護に関するニーズにあわせて、最適な e-License 追跡機能とレポート機能を選択できます。

Q e-License をローカルサーバに置く場合、何らかの情報がアドビに送信されることはありますか？

A お客様自身で e-License をローカルサーバで運用する場合、情報がアドビに送信されるということは一切ありません。また、ローカルサーバ用に ALM を設定している場合には、アドビアプリケーションに組み込まれている ALM ソフトウェアがファイアウォール外に接続することはありません。

Q e-License を Adobe ライセンスサーバに置く場合、何らかの情報がアドビに送信されることはありますか？

A ALM は、お客様のプライバシー保護を重視した設計になっています。ライセンスプールを Adobe ライセンスサーバに置く場合、e-License を要求するユーザのコンピュータ情報をアドビに送信するか、またどの情報を送信するかはシステム管理者が指定できます。ユーザのコンピュータに対してオプション設定を行うことで、匿名で e-License を要求するか、あるいは e-License 要求にコンピュータのホスト ID も含めるかを選択できます。

Q システム管理者が詳細レポートの作成や他のシステムで利用するための情報としては、ALM はどんな情報を提供してくれるのですか？

A システム管理者は ALM を使用して、ダウンロードされた e-License の種類（通常の e-License かまたはオーバードラフトライセンスか）とダウンロード先のコンピュータについての情報などが含まれたライセンスアクティビティレポートを書き出すことができます（コンピュータ名やホスト ID がレポートに含まれるのは、これらの情報がアドビに送信され、アドビのデータベースに保存されることをシステム管理者がアカウント設定で許可した場合に限られます）。書き出したレポートは、レポートツールを使用して加工したりするなど、他の目的で再利用することも可能です。

Q 社内でダウンロードした e-License についての情報は、アドビでどのように扱われるのですか？

A お客様の組織内でダウンロードされた e-License に関する情報をアドビが受け取っても、お客様からのご依頼でカスタマーサービスとサポートに使用する以外は、その情報が営業やマーケティングなど他の目的に使用されることはありません。

Q 当社ではすでに他社のインベントリー収集ツールやライセンス管理ツールを使用しています。こうしたツールと ALM は何が違うのですか？

A ALM は、アドビデスクトップ製品に関するソフトウェアライセンスの管理を自動化して簡単に行うために特別設計されており、個々の使用権を電子的なライセンスとして追跡するものです。インベントリー収集ツールやライセンス管理ツールは一般的に、コンピュータのハードディスクにインストールされたファイルに関する情報を収集するもので、アプリケーションの特定バージョンについての情報は得られたとしても、アプリケーションを使用する権利自体を調査するものではありません。

Q ソフトウェアアセット管理については、アドビは何らかの業界標準をサポートしていますか？

A アドビでは、ソフトウェア資産管理プロセスの新たな業界標準（ISO 19770-1）を全面的に支持しています。この標準は、ソフトウェア資産管理のベストプラクティスを企業が導入しやすくするために、業界が進むべき道を踏み出した大きな一歩であるとアドビは確信しています。ただ残念なことに、この新標準には、企業がコーポレートガバナンス要件を満たし、IT サービス管理全般を効果的にサポートするために従うべきプロセスしか定義されていません。現在、アプリケーションソフトウェアの確実な特定・検出方法をソフトウェアベンダやツールベンダが効果的に定義できるようにするため、新たな標準（ISO 19770-2）が提案されていますが、この標準が完成するのは早くとも 2010 年までかかると予想されます。しかも、企業がソフトウェアアプリケーションを購入した際にソフトウェアに対して取得する実際の権利（ライセンス）については、提案中のこの標準の中にその情報が含まれるかどうかまだ不明です。

Q どのアドビアプリケーションに ALM が搭載されますか？

A アドビの主力デスクトップアプリケーションについては、今後発売される新バージョンに ALM が搭載され、アドビソフトウェアのライセンスを一貫して追跡・管理できるようになります。ALM の機能は、より高い価値、より優れたサービスをすべてのお客様にご提供していくために、今後も進化を遂げていきます。

ALM の詳細やよくあるご質問については www.adobe.com/jp/elicensing をご覧ください。

Better by Adobe™

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.com/jp

この資料に記載の情報は、2006年12月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Acrobat 3D、Adobe LiveCycle、Adobe PDF ロゴ、Adobe Designer およびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。AutoCADは、米国Autodesk, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft、PowerPoint、Outlook、およびWindowsは、Microsoft Corporation の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Macintoshは、米国およびその他の国々におけるApple Computer, Inc.の登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。
©2006 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

